

令和 6 年度 指定管理施設運営状況中間評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市下北自然の家	
指定管理者	団体名	一般財団法人 むつ市教育福祉振興会
	代表者	理事長 櫻井 以文
	所在地	むつ市大畑町観音堂 2 5 番地 1
指定期間	令和 5 年 4 月 1 日 ~ 令和 8 年 3 月 3 1 日 ( 3 年間)	
指定管理業務の概要	1 施設の使用許可に関すること。 2 施設の利用料金の徴収に関すること。 3 食事代、クリーニング代及び教材費の徴収に関すること。 4 青少年の集団宿泊生活の指導及び助言に関すること。 5 野外活動、体育及びレクリエーションに関すること。 6 自然観察、その他の自然に親しむ学習活動に関すること。 7 施設の維持、管理及び修繕に関すること。 8 施設の特性を生かした利用促進に関すること。 9 その他施設の設置目的を達成するために必要なこと。	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。 (単位：千円)

区 分	年間計画額 ①	上半期実績額 ②	増 減 (②-①)
収入合計 (A)	98,314	48,709	▲49,605
うち利用料金額	8,350	3,741	▲4,609
うち指定管理料	89,934	44,967	▲44,967
支出合計 (B)	98,314	42,528	▲55,786
うち人件費	62,123	30,567	▲31,556
収支差 (A-B)	0	6,181	6,181
市への納入金			
計画額と比較した実績額の増減理由	※上半期終了時は記載不要		

3. 施設利用の状況

(単位：人)

	区 分	年間計画 ①	上半期実績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	宿 泊	1,500	531	▲969
	貸し館	150	60	▲90
	食 事	13,000	7,252	▲5,748
	洗 濯	2,500	1,062	▲1,438
	教 材	2,500	1,477	▲1,023
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有・無)				

利用団体及び主催・自主事業の際には、必ず利用についてのアンケートをとっているが、利用団体との事前打ち合わせの時から団体の要望などには柔軟に対応し、必ず対応職員をつけ、安全面の配慮や緊急時の対応ができるようにしていることから、利用者の満足度は高く、特に職員の対応と食事の献立には高評価を得ている。

上半期は昨年度より利用者数、利用料金収入ともに減少しているが、昨年度からの酷暑のため、7月後半から8月にかけて利用が激減した。暑さに対応した施設の改善が求められている。

#### 4. 自主事業の実施状況

(単位：人、千円)

事業名	利用者数	収入	支出
健康づくり「春」	34	40	36
ファミリーキャンプ	28	101	107

#### 5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準 A (優 良) : 計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果を上げることが見込まれる。

B (適 正) : 適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C (要改善) : 指定管理業務の一部に課題があると認められ改善の余地がある。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	A	A
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	A	A
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊤自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目の改善策を記載すること。

上半期の利用状況は、利用団体数 150 団体（前年度 168 団体）、利用人数 2,731 人（前年度 2,979 人）、利用延べ人数 3,945 人（前年度 4,293 人）だった。前年同時期と比較して、利用団体数は 18 団体の減少、利用人数は 248 人の減少、利用延べ人数は 348 人の減少となった。

この主な理由は、近年の記録的な猛暑により 8 月の利用が控えられたことと分析している。

利用者の増に向けての取組としては、利用団体引率者との事前打ち合わせをしっかりと行い、利用目的にできるだけ応えるよう丁寧な対応を心掛けていることや、天候に合わせた柔軟な活動・活動場所の提供を行っている。

このことは、回収できた利用アンケート 50 団体での職員の対応の項目で、大変よいが 48 団体、おおむねよいが 1 団体であることから（1）③についてはAとした。

次に施設利便性を高めるための努力として、日々の館内外の清掃や安全点検を重点的に行っている。これにより利用時の事故等も発生していないことがあげられる。その他、主催・自主事業の広報の見直しをしたことで、適度な運動や簡単な創作活動ができること、コスパのよい昼食がとれる食堂があること、無料送迎バスがあることで使いやすい施設となっていることを周知できた。又、日頃体験できない活動を安全に提供できる施設として、児童生徒の保護者に認知され、ニーズが高まってきている。

このことから、幼稚園・保育所・なかよし会や地域・町内会の高齢者団体の利用が増え、安定した利用者数の確保につながったと分析している。

利用アンケートの活動時の安全性の項目では、大変よいが 36 団体、おおむねよいが 6 団体、手続きが適切であったかという項目は、大変よいが 33 団体、おおむねよいが 8 団体、食堂の項目は、大変よいが 38 団体、おおむねよいが 3 団体という結果であった。これが（2）①をAとした理由である。

今後の取組としては、更なる利用を増やすために、昼食のメニュー一覧の作成などの資料の充実や、新しい活動プログラムの提供によりマンネリ化を防ぐ取り組みをしていきたい。

7. 市の所管課総合評価 ㊤市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

施設の利用人数などによる実績把握、アンケートや事業ごとの報告（担当者による成果と課題の振り返り）による実態把握ができています。

これにより、利用者に対する接客マナー等の向上、施設利便性を高める努力、効果に結びついていることから評価Aは妥当である。

建築年数は 45 年を超える施設であることから、丁寧かつ無理のない範囲で点検を行い、施設利用者に影響が出ないよう管理・運営をお願いしたい。